

通常砂防事業再評価調書

路線・河川等名	かみおとみ 上乙見川	事業名	通常砂防事業	補助・単独の別	補助
事業主体	京都府	事業箇所(区間)	ふないぐんきょうたんぼちょうかみおとみ 船井郡京丹波町上乙見 地内		
事業概要	路線・河川等概要	上乙見川は、京都府船井郡京丹波町上乙見に位置し、流域面積約 2.98km ² で人家 18 戸、上乙見公民館を保全対象とする溪流である。			
	事業目的	台風による大雨や近年多発する局所的な集中豪雨により土石流の発生が懸念されることから、土砂災害の被害軽減を図り、地域住民の安全、安心を確保するため、土砂災害対策工事を実施する。			
	上位計画等	○ 京都府総合計画 南丹地域振興計画			
	整備内容	○ 砂防堰堤：3 基 ○ 全体事業費：約 9.3 億円			
事業の進捗状況及び今後の見込み	○ 事業着手：平成 26 年 ○ 令和 5 年度末までの進捗率：28% (金額ベース) ○ 令和 5 年度末までの用地取得率：0% (面積ベース) ----- 用地交渉は事業への反対もなく順調に進められており、今後用地買収を行い工事に着手する予定であるため、事業進捗における問題はない。				
事業の必要性	事業を巡る社会経済情勢及び地元情勢等の変化	○ 土砂災害から保全すべきものがある状況に変化はなく、本事業の有効性は変わっていない。			
事業の有効性	事業の投資効果及びその要因の変化	○ 前回評価以降も流域内における土砂・流木に対する整備率が不足しており、保全対象である人家 18 戸、公民館の安全・安心の確保等はされていないため、本事業の有効性は変わっていない。			
コスト縮減等	コスト縮減代替案立案等の可能性	○ 現地発生土を他工事に積極的に流用調整することで、他工事を含めた総事業費のコスト縮減を図る。			
環境	良好な環境形成・保全	○ 工事の実施に当たっては、低騒音・低振動の施工機械を採用する。 ○ 現地発生土を他工事に流用し、有効利用を図る。			
総合評価		本事業は、土石流による土砂災害からの人命保護及び地域の安全確保の観点から引き続き事業を継続する必要がある。			

かみおとみがわ
由良川水系 上乙見川通常砂防事業
 船井郡 京丹波町 上乙見

上乙見川は京都府船井郡京丹波町上乙见到位置し、保全対象として人家18戸および上乙見公民館を含む溪流である。

今後の大雨により土砂災害の発生が懸念されるため、土砂災害対策を進める。

◎ **事業概要**

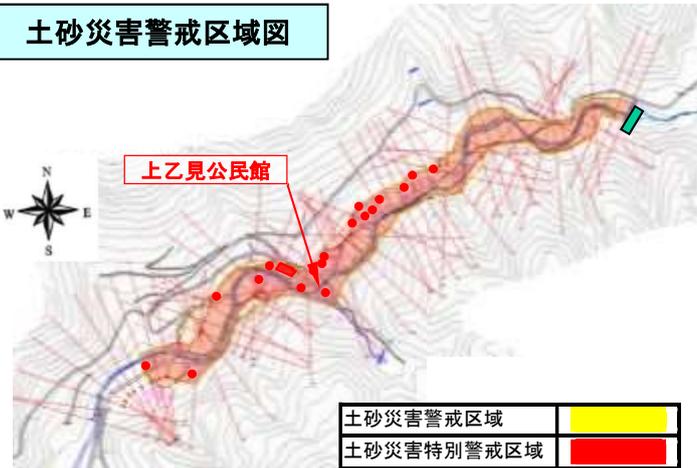
全体計画	R5までの実績	R6計画
H26～ 測量、調査、設計 砂防堰堤 3基 事業費 930百万円	土質調査、用地測量 詳細設計 事業費 258百万円	用地補償 工事用道路工 事業費 70百万円



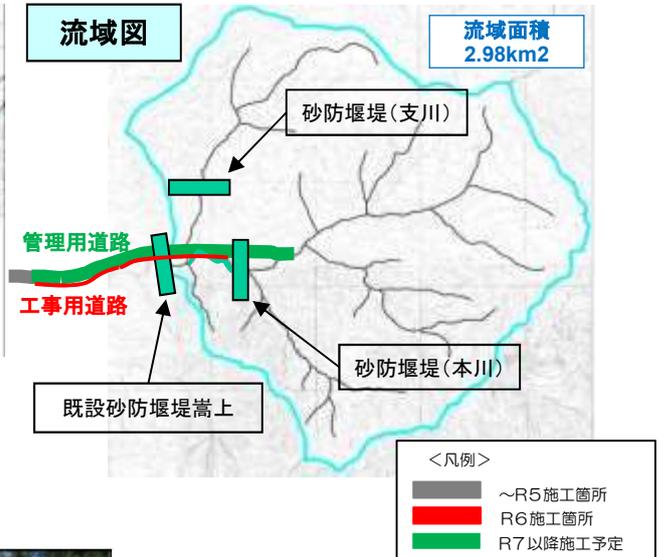
◎ **事業効果**

土石流災害から下流保全対象の人家18戸、上乙見公民館の安全を確保します。

土砂災害警戒区域図



流域図



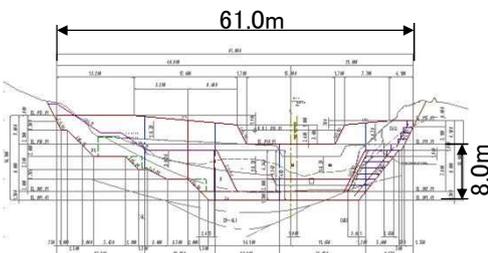
全景



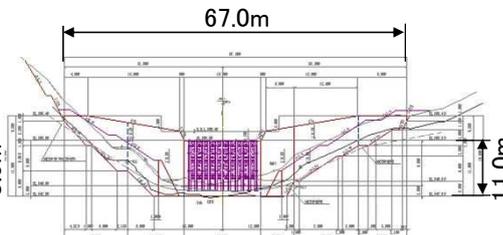
保全対象(上乙見公民館)



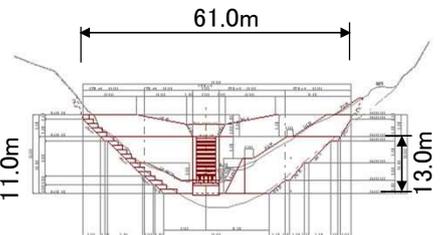
堰堤正面図(本川下流側)



堰堤正面図(本川上流側)



堰堤正面図(右支川)



『^わ環』の公共事業構想ガイドライン評価シート

作成年月日	令和6年2月2日
作成部署	建設交通部砂防課

事業名	上乙見川 通常砂防事業	地区名	船井郡京丹波町上乙見地内
概算事業費	9.3 億円	事業期間	平成 26 年度～
事業概要	砂防堰堤3基		
目指すべき環境像	事業箇所周辺は、豊かな自然環境があり、景観への配慮が必要である。事業実施にあたっては、自然環境に与える影響を可能な限り小さくするよう配慮する。また、土砂災害の発生を防止する事業であり、地域住民の安心・安全を確保すると共に、動植物の生育環境と長期的な景観の保全により、地域の生活環境の保全に寄与する。		
関連する公共事業	なし		

	評価項目		施工地の環境特性と目標	環境配慮・環境創造のための措置内容	環境評価
	主要な評価の視点	選定要否			
地球環境・自然環境	地球温暖化(CO ₂ 排出量等)		溪流が荒廃しており、溪床には不安定な土砂が堆積しているため、荒廃の進行を防止し、それに伴う溪流周辺の地形の保全を図る必要がある。事業地周辺で指定希少野生生物が生息している可能性がある。	砂防堰堤を整備することで、土砂災害の原因となる溪流の土砂移動を抑制し、現地地形の保全を図り、生態系の維持に寄与する。 個体の生息又は生育への影響が最小限となるよう配慮する。	
	地形・地質	○			3
	物質循環(土砂移動)	○			4
	野生生物・絶滅危惧種	○			3
	生態系	○			3
	その他				
生活環境	ユニバーサルデザイン		溪流下流に人家、公民館が位置しているため、工事期間中は工事車両による騒音・振動を抑制する必要がある。また、建設発生材を極力リサイクルする必要がある。	工事実施中は、低騒音・低振動機械を使用することを原則とする。 また、建設発生材は当該工事や近隣の公共工事や民間工事と調整し、再利用に努める。	
	水環境・水循環				
	大気環境				
	土壌・地盤環境				
	騒音・振動	○			3
	廃棄物・リサイクル	○			3
	化学物質・粉じん等				
	電磁波・電波・日照				
	その他				
地域個性・文化環境	景観	○	当該渓流域は豊かな自然環境や景観に恵まれていることから、植生等の環境の改変を最小限に抑える必要がある。また、地元住民に工事の周知を行い、本事業の意義を共有し理解を促す必要がある。	材料の選定においては、地域の自然環境との調和を図るように努める。 地域住民に対して行う工事説明会等は、防災に対する意識向上を図り、地域住民との協働に努める。	3
	里山の保全				
	地域の文化資産				
	伝統的行祭事				
	地域住民との協働	○			4
その他					

外部評価	
------	--